

祖父の残した田んぼ

新潟清心女子中学校

三年 渡辺 れの

「れの、こはんたけたぞー。そり言われと

私はあわてて布団から起き上がり、階段をか

けおりました。しかし、台所に祖父の姿はけ

えませんでした。た。そりぞいた、祖父は今年の三月に七くた、

たのです。私は普段は中学校の寮で生活していますの

で、祖父と一緒にごはんを食べるとは出来

たのですが、週末や長いお休みの間は祖父

と祖母の家で過ごしています。

「れのが、いほい時は、いさほ台所にたんと

、立たなかつたんだ。とあとから祖母に聞

いて大変驚きました。

私の祖父は長岡市の栃尾に田んぼをもつて

いました。刈谷田川の豊かな水源に恵まれ、

栃尾には美しい棚田が数多く残されており新

潟県が選ぶ棚田のあそ風景には七ヶ所が選ば

ば

れていよとうです。

祖父は生前いっも夕食の時間になよと、

ま<sup>っ</sup>と自慢げに私達にニウ話していました。

うちの米は、よそと水が違うんだ。と祖父

いわく、美味いお米を作ると重要なの

水だというのです。山々のミネラルを多く含

んだ雪解け水や全国名水百選にも選出された

社々の森の湧水などの清らかな水を

最高の水でお米を作るといいのだそうです。

また、エにっは、コシヒカリの栽培に

適した土を利用し、その土は滑らかなのでいいお

米ができてうたのです。

その他にもいいお米を作ったためには、気候

も重要で昼間、太陽でつくられたデングンは

夜間に穂に蓄えられます。稲の育つ夏季に、

夜の気温が高いとデングンの消耗が大きくな

り、味が落ちてしまします。栃尾地区の夏季

は夜間の気温が低くデングンの消耗が非常に

少ないのです。夏季の昼夜の寒暖差は大きく

それだけがコシヒカリの味をよくする大変重

要な要素となつていゝす。小学生の頃、友達の家の田んぼの手伝いもしたことがありますが、私の祖父の田んぼの稲刈り多く同じくらいのはたの何でだろりと祖父に尋ねたことがありました。すると祖父は勝ちほっこりたように鼻の穴をぶくませながら教えた。通常田植えは1坪あたり90株程植えるそうなのですが祖父は37株しか植えないのです。その理由は田んぼの苗を少なくするのとにふり、すべての稲にまんべんなく水を与え、合成を促進させ、また一株あたりが土から吸収できる養分も多くなると高品質なお米を作ることになるのです。

昨今、日本の農業人口は激減しており、生産が困難な田んぼについてまず最初に稲作を放棄する傾向があります。

我が家の田んぼも祖父が七くなつた今、どうしたらよいのか考えなくてはならぬのです。私の両親も他に仕事

をもち、このおりに任方がないので近所の方に協力  
して頂いておりますがいっつまでも協力して頂  
くわけにはいきません。祖父のためにも私は  
家族と協力して残していきたいと思っております。  
祖父の残した田んぼで米を作って祖父に届け  
られるよう仏壇にお供えし報告したいと思っ  
ています。お米ができたよ。と言ってます。